⑵　確定給付制度

①　退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

期首における退職給付債務	955,309,289円
勤務費用	114,411,538円
利息費用	24,838,021円
数理計算上の差異の当期発生額	△ 123,533,433円
退職給付の支払額	△ 22,121,988円
期末における退職給付債務	948,903,427円

②　退職給付債務と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表

非積立型制度の未積立退職給付債務	948,903,427円
未認識数理計算上の差異	123,533,433円
退職給付引当金	1,072,436,860円

③　退職給付に関連する損益

勤務費用	114,411,538円
利息費用	24,838,021円
数理計算上の差異の当期の費用処理額	△ 69,391,403円
合計	69,858,156円

④　数理計算上の計算基礎に関する事項

期末における主要な数理計算上の計算基礎（加重平均で表している。）

割引率　3.70％

７．減損会計

⑴　減損を認識した固定資産

①　用途、種類、場所、帳簿価額等の概要

（単位：円）

名　　称	用途	種類	場　　所	帳簿価額
附属病院工作室	一般管理施設	建物	青森県弘前市	3,524,223
地域戦略研究所（食料科学研究部門）	教育・研究施設	建物	青森県青森市	6,097,749

②　減損の認識に至った経緯

附属病院工作室は、放射線安全総合支援センター研修棟（仮称）の新設に伴い使用しないことが決定したことから、使用を終了した令和７年５月15日をもって減損の認識をしております。

地域戦略研究所（食料科学研究部門）は、研究所の移転に伴い使用しないことが決定したことから、使用を終了した令和８年１月27日をもって減損の認識をしております。

③　減損額の主要な固定資産ごとの内訳

（単位：円）

名　　称	種類	損益計算書に計上した金額	損益計算書に計上していない金額	計
附属病院工作室	建物	3,524,222	—	3,524,222
地域戦略研究所（食料科学研究部門）	建物	5,435,842	661,899	6,097,741

④　複数の固定資産を一体として判定した理由

当該資産は、建物及び建物と補完的な関係を有する附属設備からなっており、それらは一体となってそのサービスを提供するものと認めております。

⑤　回収可能サービス価額の算定方法

附属病院工作室は、解体工事によりすべて取り壊しとなることから、正味売却価額及び使用価値相当額ともに０円となるため、備忘価額（１円）を回収可能サービス価額として用いております。

地域戦略研究所（食料科学研究部門）は、借用元の青森市へ将来的に返還することから、正味売却価額及び使用価値相当額ともに０円となるため、備忘価額（１円）を回収可能サービス価額として用いております。

⑵　減損の兆候が認められた固定資産

①　用途、種類、場所、帳簿価額等の概要

（単位：円）

名　　称	用途	種類	場　　所	帳簿価額
屋内プール	体育施設	建物	青森県弘前市	26,803,154

②　減損の兆候の概要

屋内プールは、用途変更や機能強化に向けた改修を検討しており、その間の使用中止により、減損の兆候が認められております。

③　複数の固定資産を一体として判定した理由

当該資産は、建物及び建物と補完的な関係を有する附属設備からなっており、それらは一体となってそのサービスを提供するものと認めております。

④　減損の認識に至らなかった根拠

屋内プールは、改修に向けた一時的な使用中止であり、将来の使用の見込みがあるため、減損を認識しておりません。

⑶　翌事業年度以降の特定の日以後使用しないという決定をした固定資産

①　用途、種類、場所、帳簿価額等の概要

（単位：円）

名　　称	用途	種類	場　　所	帳簿価額
臨床研究棟（外来診療棟への渡り廊下含む）	教育・研究施設	建物	青森県弘前市	627,737,117

②　使用しなくなる日

令和８年度以降の特定の日

③　使用しないという決定を行った経緯及び理由

当該資産は、医学部附属病院の整備計画に基づく病棟新営に伴い、解体予定となっております。

④　将来の使用しなくなる日における帳簿価額、回収可能サービス価額及び減損額の見込額

使用しなくなる日が未定であるため、算出しておりません。